

【SR-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイド ライン	がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合 同ガイドライン
対象	がん薬物療法を受ける予定/受けている患 者
介入	CV、PICC、CVポート、PICCポート
対照	末梢静脈

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は「高（-2）」、「中／疑い（-1）」、「低（0）」の3段階。
まともは「高（-2）」、「中（-1）」、「低（0）」の3段階でエビデンス総体に反映させる。
* *上昇要因
各項目の評価は「高（+2）」、「中（+1）」、「低（0）」の3段階。
まともは「高（+2）」、「中（+1）」、「低（0）」の3段階でエビデンス総体に反映させる。
アウトカムごとに別紙にまとめる。

エビデンス総体								リスク人数（アウトカム率）													
アウトカム	研究数	研究デザイン	*バイアスリスク	*非一貫性	*不精確性	*非直接性	*その他（出版バイアスなど）	*（観察研究） *上昇要因	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標（種類）	効果指標統合値	95%信頼区間	強さ	*エビデンスの	*重要性	コメント
デバイス留置後の合併症(感染、血栓、血管外漏出)	RCT/1		-1	0	-1	0	0		NA	NA	NA	74	3	4	NA	NA	NA	C	6		1研究のみですが、RCTを行い難い研究であると考えられ出版バイアスは低いと考えました。症状は、血栓性閉塞：1件、ポート移動を伴うカテーテル破損：1件、皮膚浸食：1件です。本アウトカムにおける対照群のイベント数は不明で比較できませんでしたが、本アウトカムの数値は他の研究から妥当な範囲であると考えました(SR-9参照)。エビデンスの強さと重要性は、デバイス留置後の合併症(感染、血栓、血管外漏出)と処置時の合併症(出血、気胸など)でいずれも対照群がなく、差
処置時の合併症(出血、気胸など)	RCT/1		-1	0	-1	0	0		NA	NA	NA	74	3	4	NA	NA	NA	C	6		1研究のみですが、RCTを行い難い研究であると考えられ出版バイアスは低いと考えました。症状は全て気胸です。本アウトカムにおける対照群のイベント数は不明で比較できませんでしたが、本アウトカムの数値は他の研究から妥当な範囲であると考えました(SR-9参照)。エビデンスの強さと重要性は、デバイス留置後の合併症(感染、血栓、血管外漏出)と処置時の合併症(出血、気胸など)でいずれも対照群がなく、差
デバイスfailure(閉塞、感染、抜去など)	RCT/1		-1	0	-1	0	0		60	16	27	59	2	3	RR	0.13	0.03-0.53	B	9		1研究のみですが、RCTを行い難い研究であると考えられ出版バイアスは低いと考えました。、中心静脈アクセスポートは末梢静脈ラインと比較してデバイスfailureの発生が少ないという結果でした(p=0.0004)。

デバイスfailure(閉塞、感染、抜去など)

